

嘉手納基地返還跡地から発見されたドラム缶の内容物の調査を求める意見書

去る6月13日、米軍嘉手納基地の返還跡地である沖縄市サッカー場工事現場からベトナム戦争時に健康被害を引き起こすダイオキシンを含む枯葉剤等を供給していた総合化学品メーカーの社名が記載されているドラム缶が十数本見つかった。

同社が危険な枯葉剤製造の最大手企業であることから、社名の記載のあるそのドラム缶の内容物が人体や環境に強い影響のある有害物質ではとの疑いが取り上げられている。

これまでもベトナム戦争に関わり米軍北部訓練場での猛毒のダイオキシンを含む枯葉剤の散布作業に携わった米兵の後遺症認定報道や、枯葉剤が入ったドラム缶を北谷町海沿いの返還地に埋めたとの証言などの新聞報道があり、環境汚染が払拭されない中での今回の事件は、県民へ大きな不安を募らせている。

早急に周辺一帯の土壌及び成分分析を行い、環境に影響が出ていないか、汚染されていないか徹底した調査が必要である。

よって、嘉手納町議会は嘉手納基地を抱える自治体として、町民の生命、安全、平穏な生活を守る立場から、関係当局に対し、下記事項の速やかな実現を強く要求する。

記

1. 速やかに詳細な調査を行い、その結果を公表するとともに米軍への照会も含め返還前後の当該地域の情報公開を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年6月28日
沖縄県嘉手納町議会